

内藤新宿の新しい分水：
御苑の散歩道に生まれた水の流れが新たな涼しさを呼ぶ



撮影：2013年9月（東京都・新宿区内藤町）

◆玉川上水を彷彿とさせる分水の軌跡

江戸時代にはこの地に玉川上水が流れて、大木戸水番屋から暗渠により江戸市中に送られました。今回できた内藤新宿分水は約1mの水路幅と5～1cmの水深の新しい“分水”です。水源は甲州街道の地下トンネルの地下水がポンプアップされます。

かつて延焼防止林であったシイ・カシ林の木陰とともに、流れによる涼しさも感じられるようです。

全長550mにわたる玉川上水の新しい分水を見学するために、遠方からも人が訪れます。

岡村幸二（JRRN会員）